

## 【持続可能な社会を目指すスウェーデン市民と出会う旅】

2月5日から4日間。このツアーでは、私の環境に対する考え方を大きく変える最高のきっかけになりました。

リボーンのツアーでは、土地の歴史や特徴を見学、行くことだけではなく、学びや発見、そしてその土地の人々との交流がとて多く、心に響くものの大きさや出来事がとても多いツアーであるということがとても実感できました。



### 【1日目。ストックホルムを散策】

木々に綺麗に雪がかかり、とても綺麗でした。湖までに歩く途中、大きなゴミ置き場を訪れました。

そこには6つの大きなゴミ箱があり、市民がきちんと分別するという意識が根付いていることがよくわかりました。また、レーナさんのお話によると、各商品には、処理をするための費用が含まれており、そのシステムについても、市民一人一人が理解しているといったことでした。

ガソリンスタンドには、有機廃棄物の回収場所があったり、電気自動車用の充電所があったり、見渡せば、エネルギーの活用の工夫にあふれていることを感じました。

またそこから、少し歩き、ノーベル賞授賞式の場所である有名な市庁舎、石畳の美しい旧市街を歩きました。

お昼は、スウェーデン料理を堪能し、その後は自由行動へ。

### 【2日目。原発使用済み燃料処分場予定地エストハンマー訪問視察】



今回のツアーで衝撃的だったのが、原発最終処分場予定地の視察でした。そもそも、私の勉強不足ではあったのですが、この地球上には、原発で電気を算出したのちにする、廃棄物の最終処理ができていないという事実を私は、このツアーに参加するまで知りませんでした。

また、環境保護活動の取り組みに対して、最先端をいくスウェーデンでさえ、

20年以上たった今でも、最終処分場の稼働の時期は正確には決定していません。

予定地の搜索から、細かな調査。そして、市民の理解 etc・・・。予定地を決定させるまでには、本当に大変な努力が必要なことが、とても伝わりました。

地震発生が多い日本では、スウェーデンと同じようなシステムは機能しません。そうすると、日本では原発使用燃料の処理はどうするつもりなのか。考えただけでも、頭が痛くなってしまいました。

### 【3日目。ウップサラの取り組みと、緑の党との交流会】

ウップサラでは、1945年から、バイオガスを作っています。2005年に有機廃棄物は土の中に埋めてはいけないということ

になり、Uppsala Vatten では、2006年には、ウップサラ市内のすべての有機廃棄物を回収しているそうです。化学物質は一切使用せず、有機肥料やガスを作っています。

その燃料は、ウップサラ市内を走るバスや車に使用されています。

スウェーデンでは、このような施設が230ほどあるそうです。

施設の見学を終えた後、森の自然学校へ。

自然学校の遊びを堪能した後、自然学校の先生のお話を聞きました。先生は「こどもたちには、大人が作ってしまったこの環境には責任がないのです。」とこの考えは、翌日伺った小学校の先生全員が口を揃えてそう言います。

また、「子供たちに環境保護について、強く教育はしません。ただ、自然と沢山ふれてもらうことで、進んで自然を愛し、自然を大切に作る心をそだてるのです」と。

スウェーデンの自然環境に対する教育は、まさに、ここにあったのだと感じました。

そして、その日の夜。日本人留学生の小串さんとともに、緑の党青年部との交流会に参加しました。



現在、スウェーデンの環境党は、一体誰のために原発が必要なのかを問いかけ、最終的には、100%再生可能なエネルギー国にしようと、活動しています。

福島原発事故が起きた日本は、今再び、原発問題に火がついています。しかしながら、なかなか一行に話が進んでいるような気がしません。原発は恐ろしい。設置反対。漠然とこのような認識はありましたが、こうして過ごして行く中、今もなお、処理できない多くの廃棄物が発生していると思うと、考えるだけでぞっとしてしまいました。

2時間では、お互いの国の簡単な状況説明で終わってしまい、時間が足りないほどでした。しかし、共に原発へ対する思いは共通。そんな思いを感じた貴重な時間でした。

#### 【4日目。幼稚園の野外活動見学と、トリビューンさん宅の訪問】

夜行列車に乗って、着いたのは、ウーメオ。

まずは、幼稚園の野外活動の見学に行きました。20人近くの5・6歳の子供たちと、雪の上で鬼ごっこやかくれんぼに近い遊びから、動物の足跡探しなどで遊びました。スウェーデンでは、6歳から英語を習い始めるそうで、なかなか言葉がつうじななかったのですが、とても楽しく、遊んでくれました。

自然の中で、自然や動物のことを学ぶのはもちろんですが、スウェーデンでは、英語や算数などなんでも教えるようです。

このように、ここでも、小さな頃から沢山の自然にふれ、自然を愛する心を育てていました。

午後からは、木質ペレットを利用して生活しているトリビューンさん宅に訪問。スウェーデンハウスが並ぶこの街も、またとてもか



わいらしく。とても素敵なところでした。

スウェーデンでは、自分たちが作り出すものに対し、責任を持って最終的にどうなるのかを考えるという意識があります。

大きなことを言ってしまいましたが、改めて、日本は目先の経済成長だけを考えるだけではなく、様々な決めごとに最後のことまで考え、行動していかなければいけないと感じました。

ただ、その実現は、社会体制を変えるだけでは成り立ちません。国民一人一人の意識が大切なのです。

だからこそ、この現実には、もっともっと目を向ける環境を作り出さなければいけない。

私も、ようやくここまでの意識にたどり着きました。

今すぐに社会をかえることはできなくても、国全体が、環境保護活動に取り組む姿勢が出来たときに、積極的に協力できる心はできてきたのではないかと感じました。

まずは、気がつくこと・周りにこの思いを伝えることから始めて見たいと思います。

このツアーでは、人生の中の大きなそしてとても大切なきっかけを与えてくれたと感じました。

私は、自身の都合上、4日間だけの滞在でしたが、1日1日が濃く、毎日吸収できないほどの多くの出来事がありました。

今回のツアーに参加できたこと、そして一緒にツアーに参加された皆様、留学生の小串さん、岡さん、緑の党の方々と深く交流できたことに、心から感謝しています。